

8702 国見は、タクシーを拾おうとする奥村に・・・

国見は、タクシーを拾おうとする梶村に、

「ちょっと待ってくれ、おれは古賀さんに電話したいから」

「電話?」

「あの席じゃ、いえないものな」

国見はそういうと、道路わきの公衆電話にとりつき、ダイヤルをまわした。梶村は聞くとはなしに聞いた。国見は、電話口に出た古賀に、

「余計なお節介かもしれませんが、じつは」

と前置きして、黄はシンガポールでは呂と称していた金融ブローカーであり、社長はそのことをご存じないのではないか、といった。それに対して古賀がどう答えているのか、梶村にはわからなかった。

三好 徹：戦士たちの休息

[許容訳例]

Kunimi said to Kajimura, who was about to hail a taxi, "Wait a minute. I'd like to phone Mr. Koga."

"To phone Mr. Koga?"

"Yes. I couldn't tell him in front of the others."

So saying, Kunimi huddled over a public telephone by the roadside and dialed.

Kajimura heard without intending to. Kunimi said to Koga, when came to the phone, "This may not be my business, but in fact..." Wong, he went on to explain, was a money broker who called himself Lu in Singapore, though Koga probably didn't know this.

Kajimura couldn't tell what was Koga's response to this.

[翻訳例]

Kajimura was about to hail a taxi when Kunimi said, "Wait a moment I want to phone Mr. Koga."

"Phone?"

"Well, I could hardly tell him in front of those people, could I?"

Without further ado, he huddled over a public phone outside a shop, and started dialing. Kajimura listened idly.

"I don't want to interfere," said Kunimi when Koga came to the phone, "but the fact is..." And he went on to explain that Wong was a money broker who had called himself Lu in Singapore, a fact of which Mr. Koga himself was probably unaware. Kajimura couldn't tell what was Koga's response to this.

■国見は、タクシーを拾おうとする梶村に、「ちょっと待ってくれ、おれは古賀さんに電話したいから」(8702)

★「タクシーを拾う」は、この場合「手をあげてタクシーを拾う」ということでしょうから hail a taxi です。辞書には flag down と pick up が出ていますが、flag down は使えます。pick up は「乗り込む」という動作を含むものですから、「手をあげてタクシーを拾う」という場合には使いません。

★「(タクシーを)拾おうとする」は、状況によって二つの場合が可能です。一つは「タクシーを拾うという行為をやっていて、すでにタクシーが来て止まろうとしている」、つまり be doing の場合と、「タクシーを拾うということにはなっているけれど、まだ具体的にその行為をやっていないで、まさに具体的にその行為をしようとしている」つまり、be about to do の場合です。ここは後者の場合であろうと思われます。

●「連体修飾節+特定名詞」(タクシーを拾おうとする梶村→梶村がタクシーを拾おうすると)

「国見は、タクシーを拾おうとする梶村に」の「タクシーを拾おうとする梶村」は「連体修飾節 (タクシーを拾おうとする) + 特定体言 (梶村)」ですから、英語では「特定名詞 (Kajimura) + コンマ関係詞節 (, who was about to hail a taxi)」で処理することが出来て、意味はわかるし、訳として間違いではないのですが、理想的な訳とは言えないと思います。Kajiumra, who…とすると‘梶村がタクシーを拾おうとしている’の部分を、ついでに述べたという感じで、‘国見が…と言った’と‘梶村がタクシーを拾おうとしていた’という二つの部分が直接関係ないような感じになります。ここは直接話法の文が続くので、「梶村がタクシーを拾おうとする [と]、国見は彼に「…と言った」のように「同時」([と]) ととらえて二つの部分の関係を関連づけて Kajimura was about to hail a taxi, when Kunimi said to him “…”と処理する方が日本文の感じが良く出ると思います。

★「ちょっと待ってくれ」は wait a minute [moment] でしょう。

★「古賀さん」は、ここでは社長、つまり、上司のようですから Mr. Koga でしょう。

★「～に電話をする」は phone [call] ~ですが、ちょっと「電話」を強めて call より phone の方がいいと思います。なお、「～に電話をする」には give ~ a call もありますが、これは、たとえば、Give me a call tomorrow. のように使うのが普通で、ここでは合わないような気がします。

★「…したい」は I want to…でいいでしょう。ここは「若い社員が（子供っぽく）もろに欲求をする」という感じなので、大人っぽく I'd like to… 「(できたら)…したい」では弱すぎるように思われます。昔、イギリスの出版社と仕事をしているとき、編集会議のあと Drury Lane に入ったところにあるちょっと有名な De Quincey というパブで軽く一杯したあと、帰る時に担当重役の編集長が「送ろうか」と言ってくれたので、“I want to walk.”と答えたたら、「僕がおかしな英語を使ったら即座に言い直してくれ」と頼んでおいたので、すかさず彼が“I'd like to walk.”と言いました。理由を聞くと I want to は「子供っぽい」と

のことでした。ここでは若い社員の言葉のようなので、I want to…としたいです。

★「・・・したいから」の「から」は強いて訳す必要はないでしょう。

■「電話?」(8702)

★「電話?」は、次の「あの席じゃ、言えないものな」という返答と考え合わせると、ここは‘別れたばかりなのにどうして電話するの?’という状況ですから、「電話」を強調する意味で call ではなく“Phone?”がいいでしょう。あるいはイタリックにして“Phone?”か“Phone him?”としてもいいでしょう。

■「あの席じゃ、いえないものな」(8702)

★「あの席じゃ」は in a place like that でもいいですが、「今まで自分たちと同席していた人たちの前では」という意味なので in front of those people[the others]がいいでしょう。

★「いえないものな」は「とても言えないだろう?」と考えて I could hardly tell him…, could I? と付加疑問で処理することが出来ます。なお、文頭に Well, を付けると「・・・ものな」という会話的なニュアンスがよく出るかもしれません。

■国見はそういうと、道路わきの公衆電話にとりつき、ダイヤルをまわした。(8702)

★「国見はそういうと、・・・」は「そう言って国見は・・・」(So saying...)と考えてもよいし、「そして国見は・・・」(And he...)としてもよいし、'即刻'という意味に解して「すぐに国見は・・・」(Without further ado...よけいなことをせずに)としてもいいでしょう。なお、With saying so という言い方はありません。with を使うなら With which, あるいは With this なら Without further ado に近い感じで使うことが出来ます。

★「道路わきの公衆電話」がボックスの中の公衆電話でないことは、「とりつき・・・」という動作状態、および、「聞くとはなしに聞いた」というあたりからわかります。おそらく、この公衆電話は店先などに置いてある電話でしょう。したがって a public telephone by the road でも間違いではありませんが、これでは何となくぽつんと一台電話があるような感じです。状況から考えると a public telephone outside a shop ぐらいがいいと思います。

★「～にとりつき・・・」のイメージは「電話を抱え込む」という感じで「内緒話をしている」という姿勢ではないかと思われます。その意味では「とりつく」は huddle over ~がぴったりです。hold fast to; cling to は「しがみつく」の感じで、ここでは合わないと思います。

★「ダイヤルをまわした」は dialed でもいいですが、started dialing の方が英語として正確です。

■梶村は聞くとはなしに聞いた。(8702)

★「梶村は聞くとはなしに聞いた」は Kajimura heard without intending to (overhear him)。で英語として間違いないのですが、非常に微妙です。簡単に言えば「梶村の耳に話がもれてきこえた」ということであって、英語的には、

「聞くつもりがないのに聞こえた」(didn't intended to hear [listen])

「聞くまいと思って耳に入って来た」(couldn't help hearing)

「特に興味があるわけではないが、他にすることもなく聞いていた」(listened idly)
など、場面の解釈によって、それぞれ異なる表現になります。ここでは、全く無関心というわけでもなく、多少の興味はあったと思われる所以、最後の解釈がもとの日本文の意味に近いのではないかと思われます。

■国見は、電話口に出た古賀に、「余計なお節介かもしませんが、じつは」と前置きして、黄はシンガポールでは呂と称していた金融ブローカーであり、社長はそのことをご存じないのではないか、といった。(8702)

★「電話口に出る」は come to the phone がいいでしょう。ほかに answered to the phone も可能です。

●「連体修飾節+特定体言」(電話口に出た古賀→古賀が電話口に出ると)

「電話口に出た古賀」は「国見は、電話口に出た古賀に，“…”といった」という文脈で使われています。言うまでもないことですが、Kunimi said to Koga who came to the phone…という英文は、他の古賀の存在を認めることにならぬので使えません。また、Kunimi said to Koga, who came to the phone, …にすると、「古賀が電話口にでたので」とか余分な要素が加わります。ここは、「国見は古賀が電話口に出ると、「…」と言った」として、“…” said Kunimi [Kunimi began] when Koga came to the phone, “…”と変換することになります。ついでながら、日本文では「余計なお節介かも知れないが…」の直接話法の後に、直接話法の文を地の文にして続けて、最後に「…と言った」と伝達動詞を置いていますが、英語では、上に示したように、一部を先に出して、誰が誰に伝えているのかをはっきりさせるのが普通です。

★「余計なお節介かもしません」は「これ(=今から述べること)は私には関係ないことがかもしれない」とか「お話を中断させたくないのだが…」と考えて、This may not be my business.とか I don't want to interfere.など。他に This may be [is] none of my business.も可能です。I don't want to poke my nose into your affairs.も間違いではありませんが、この表現は、二者の間に全く関係がない場合に用いるものなので、ここでは適当とは言えません。

★「…が、じつは…」は but in fact…とか but the fact is…ぐらいです。

★「…と前置きして」は、英語では「前置き」にこだわらずに「「…が、じつは」と 続けて言った」とすればいいのです。したがって、then went on to say [explain] that…でいいでしょう。なお、辞書には be way of preface も出ています。間違いではありませんが、ちょっと大げさな感じになります。また preamble という語もちょっと大げさな感じです。また、adding that…にすると「ついでに言うと [言い添えると]…」という意味になるので、ここでは使えません。

●間接話法あるいは描出話法

「黄はシンガポールでは呂と称していた金融ブローカーであり、社長はそのことをご存じないのではないか、といった」の部分は、直接話法の文がそのまま地の文の中に挿入されています。こういう書き方は英語にはありません。ダブルクオーツを使って直接話法にするか、

間接話法にするか、あるいは描出話法で書くことになります。

★「黄は・・・」の「黄」は人名としては「ホアン」(Hoang)と表記されるようですが、土地によって他にもいろいろ読み方があるそうです。ここでは Wong を使います。

★「シンガポールでは呂と称していた」の「呂」は「リュー」あるいは「ルワー」で、ここでは Lu とします。で、「シンガポールでは呂と称していた」は「シンガポールでは呂と自称していた[と知られている]・・・」として(had) called himself Lu in Singapore とか was [had been] known as Lu in Singapore とします。

★「金融ブローカー」は a money broker です。

●「連体修飾節+不定代名詞的体言」(シンガポールでは呂と称していた金融ブローカー)
「シンガポールでは呂と称していた金融ブローカー」は「連体修飾節(シンガポールでは呂と称していた)+不定代名詞的体言(金融ブローカー)」ですから、英語では「名詞(a money broker)+関係詞節(who had called himself Lu in Singapore)」です。

★「社長」は、ちょっと難しいですが、直接話法で「社長は・・・」と言った場合、日本では「社長当人」(ここでは Mr. Koga)を指しているのが普通です。(もちろん、古賀が直接の上司で、社長は別人ということもあり得ます)つまり、「社長」は、相手に向かって言った言葉で、直接話法では“You…”となります。ここでは間接話法にしなければならないので(Mr.) Koga [he] … と改めないと人間関係がわからなくなってしまいます。

★「そのことをご存知ではないのではないか」は、then went on to say [explain] that…に続けて、and to wonder if…とするか、Then went on… and he wondered if …あるいは and he wondered if he knew of [about] it とするか、and he suspected that he didn't know of [about] it とします。または、「(…金融ブローカーです)、でも、社長は知らないでしょうが」ぐらいに改めて、Though (Mr.) Koga himself probably didn't know this [(Mr.) Koga was probably unaware (of this)]、あるいは、前文の内容を先行詞として…; a fact of which (Mr.) Koga himself was probably unaware. と処理することも出来ます。ついでながら、He wondered if he didn't know of it とすると「(知らなかったのだろうか) 知っているんじゃないか」という逆の意味になってしまいますから、注意。

■それに対して古賀がどう答えているのか、梶村にはわからなかった。(8702)

★「それに対して」は to this です。

★「古賀がどう答えているのか」は進行形も可能で What Koga was replying となります。ただし、ここでは、答えのプロセスが問題ではなくて、その内容ですから必ずしも進行形を使わなくても what Koga's response to this was とか、what was Koga's response to this などとも出来ます。なお、how を使うと「どう反応しているか」になってしまいます。ここでは使えません。

★「梶村にはわからなかった」は Kajimura couldn't tell… とします。didn't know(知っていなかった)は駄目です。